



# 大阪YWCA

7  
2021

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 沖縄戦戦没者を 二度殺す計画に反対を!



うふざと伝道所牧師 島 しづ子

沖縄・普天間基地の代替に辺野古への移転が住民の声を無視して進められ、辺野古の埋め立てが始まって2年余り。今現地ではどのようなことが起こっているのでしょうか。

### 新基地の現在

辺野古・大浦湾・安和で新基地建設抗議船に乗っています。新基地は辺野古側の擁壁が3メートルの高さになりました。擁壁の中に埋められる土砂は本部町の山から運び出されています。土砂は安和棧橋や塩川から土砂運搬船に乗せられて大浦湾に運ばれています。市民が土砂を積んだトラックの前をゆつくり歩き、カヌーチームが土砂運搬船の出航を遅らせたりしています。昨

### 遺骨の混じる土砂

5月15日、糸満市米須にある「魂魄の塔」で集会がありました。チラシには「沖縄戦戦没者の遺骨が含まれる土砂

を辺野古の埋め立てに使わせではいけません。」とあります。南部戦跡は1945年4月から6月まで沖縄戦によって追い詰められた住民や朝鮮半島から強制連行された兵士たち、日本兵、米兵が亡くなった場所です。ガマフヤー

### 南部沖縄戦

(遺骨収集団体)の具志堅隆松さんたちが遺骨収集をしている場所で、収集されていない遺骨がたくさんあります。具志堅さんはこの暴挙を止めようと、3月1日〜6日まで県民広場前でハンガーストライキをしました。具志堅さんは「新基地建設に遺骨の混じった土砂を使うなんてことは誰が考えても許されない」「戦没者を二度殺すことだ」と言い、この行動は大きなうねりを生み出しています。集会で喜屋武幸清(こうせい・82才)さんが以下の辛いお話をされました。

### 南部沖縄戦

1945年6月、6歳だった幸清さんはお母さんときょうだい四人と摩文仁の自然壕にたどり着きました。その時、日本兵が銃を突き付けて、「小さい子供が泣くとア

メリカ兵に気付かれるから壕には入れない」と言ったそうです。お母さんは迷った末、二歳の弟と一歳の妹を壕から離れた場所に連れて行き、置き去りにしました。お母さんは歩ける弟が壕まで追って来たので、さらに遠くへ置いてきたとのことでした。その後、喜屋武さんたちは米軍に保護され助かったそうです。お母さんは1954年、39歳の時心臓まひで亡くなるまでよく泣いていたそうです。幸清さんは12年前に自分たちが逃げ込んだ摩文仁の壕を探しましたが、その壕を発見できなかつたそうです。小さな弟さんや妹さんの遺骨は、探し出されるのを待っているのかもしれない。沖縄戦では亡くなった人も生き残った人も辛い思いをもって生きてきたことがわかります。

しま しづこ

2020年4月から沖縄南城市・うふざと伝道所に赴任。辺野古新基地建設反対抗議船乗組員。著書「あたたかいまなざし」「イエスのまなざし」「尊敬のまなざし」 燦葉出版社刊